

平成 22 年 5 月 12 日

各 位

東京都港区虎ノ門四丁目 1 番 28 号  
虎ノ門タワーズオフィス  
フィンテック グローバル株式会社  
代表取締役社長 玉 井 信 光  
(コード番号：8789 東証マザーズ)  
問合せ先：取締役 執行役員 財務部長兼事業統括部長  
鷲本 晴 吾  
電 話 番 号 ： ( 0 3 ) 5 7 3 3 - 2 1 2 1

### 平成22年9月期第2四半期連結累計期間業績と前年同期実績との差異に関するお知らせ

当社は、平成 22 年 9 月期第 2 四半期連結累計期間（平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）における業績につき、業績予想をしておりませんので、前年同期との対比について下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成22年9月期第2四半期連結累計期間（平成21年10月1日～平成22年3月31日）業績と前年同期実績との差異

##### (1) 差異の内容

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益
前年同期実績(A) (21年9月期第2四半期)	2,047	△19,625	△20,484	△14,169
今回発表業績(B) (22年9月期第2四半期)	2,592	△775	△774	△405
増減額 (B-A)	544	18,850	19,709	13,763
増減率 (%)	26.6	—	—	—

##### (2) 差異の理由

#### 【売上高】

第2四半期連結累計期間では、当社グループの主力である投資銀行事業及びそれに付随する不動産関連事業において、資金需要者（投資機会）のソーシング及び国内外の投資家招聘に積極的に動き、両者のマッチングのためのストラクチャードトレーディング(注)及び投資物件のアセットマネジメント業務獲得に営業リソースを重点的に投入しました。レンダーや投資家の新規の投融資姿勢に改善の兆しが見られる中、当第2四半期においては海外の大手ファンドを招聘し当社との共同出資によりマンション再販投資案件をクローズし、当該投資ビークルのア

セットマネジメント業務をフィンテックアセットマネジメント㈱(第1四半期決算より新たに連結)が受託したことにより、手数料収入を売上計上しております。この他、マンション再販投資事業及び不動産仲介の売上が前年同期比で増加しており、当連結会計年度より本格稼働している㈱新栄不動産開発が売上貢献するとともに、子会社のSPC(特別目的会社)が投資物件を売却したことで売上を計上しております。一方では、前連結会計年度に資産圧縮のため営業貸付金等の回収を進め投融資残高が減少した影響により、金利収入が前年同期比で減少しており、アレンジャー業務及びキャッシュマネジメント等を行うその他投資銀行業務の売上についても前年同期比で減少しております。このため、投資銀行事業の売上高は231百万円(前年同期比62.2%減)、不動産関連事業の売上高は1,452百万円(前年同期比152.4%増)となりました。

再保険保証事業では、滞納家賃保証を行う㈱イントラストの全株式を平成22年2月3日に譲渡したことに伴い保証料収入が減少したものの、再保険を行うCrane Reinsurance Limitedの契約増に伴い保険料収入が大幅に増加したことで、当事業の売上高は786百万円(前年同期比11.2%増)となっております。

その他事業では、㈱パブリック・マネジメント・コンサルティングが各地方自治体の厳しい予算環境の影響を受け、売上高は121百万円(前年同期比20.0%減)となりました。

これらの結果、売上高は2,592百万円(前年同期比26.6%増)となりました。

#### 【営業損益、経常損益】

売上原価は1,956百万円、販売費及び一般管理費は1,411百万円となり、前年同期と比較してそれぞれ8,726百万円、9,578百万円減少しました。これは、前年同期に大幅な営業有価証券評価損や貸倒引当金繰入等(合計191億円)を計上しておりますが、当第2四半期連結結果計期間における評価損、貸倒引当金繰入等は第1四半期に計上した営業投資有価証券評価損137百万円となっており、前年同期比で大幅に減少したことが要因であります。さらに、業務の効率化を進め人件費や経費の見直しを行ったことにより固定費を圧縮しましたが黒字化には至らず、営業損失は775百万円(前年同期は19,625百万円の営業損失)、経常損失は774百万円(前年同期は20,484百万円の経常損失)となりました。

#### 【四半期純損益】

特別利益として、ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の買入消却により社債償還益329百万円、営業貸付金の評価の一部見直しにより貸倒引当金戻入益179百万円を計上しております。また、特別損失として、㈱イントラストの全株式及び同社に対する債権を譲渡したことにより関係会社整理損291百万円を計上しております。これらの結果、四半期純損益については、405百万円の四半期純損失(前年同期は14,169百万円の四半期純損失)となりました。

(注)ストラクチャードトレーディングとは、物件の売り手と買い手の希望価格や投資家のリスク許容度、さらにその他の関係者との利害対立などにより、ストレートな売買ができない場合に、取引の仕組み構築やそれぞれの関係者の利害調整を行うことで、取引を成立させる当社の業務手法です。

以 上